2023 年 6 月 27 日

学校法人三幸学園
東京スイーツ＆カフェ専門学校
校長　髙橋　斉　殿

学校関係者評価委員会
委員長　長山 慎太郎

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　長山　慎太郎　（有限会社ヒューマンカウンシル　代表）
②　大内　美寿穂　（第 8 期卒業生）
③　齊藤　貴雄　　（学校法人　三幸学園
飛鳥未来きずな高等学校　お茶の水キャンパス　教頭）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2023 年 6 月 27 日（会場　東京スイーツ＆カフェ専門学校　図書室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 東京スイーツ＆カフェ専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 和田 忍
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長 長山 慎太郎

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツと・カフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する（全ては、お客様の笑顔とありがとうのために）人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

1. 生徒教育（教務）の継続と強化

→人間力（マナー・モラル、挨拶やリアクション等）を磨く・自律・技術取得の 3 つの観点を取り組むことで、愛される人材へと近づくと考え、定期的な発信による浸透と掲示物からの雰囲気作りに努めた。2021 年度から強化してきたこともあり、普段の学校生活で変化が見られ、浸透してきたと感じるようになった。

2. 退学率の低減への取り組み・就職支援（在学・卒業後）・資格検定の合格率向上

→コロナ前に戻していくことを心掛けつつも、新型コロナウイルス感染症対策や衛生管理を徹底し、安心して学習できる環境と理解を求め、教育活動を提供した。通常の学校生活や授業での学び、そして、行事などを実施できたことにより、生徒の満足度は向上し、退学者の低減につなげることができた。また、資格・検定においても友人同士で切磋琢磨する姿もあり、合格率は例年と比べ向上。さらに、求人件数・採用数も例年と比べ回復傾向であり、手厚い就職支援と指導を行った結果、昨年以上の就職決定率となった。

3. 課外活動の再開

→新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、昨年度実施できなかった行事や産学連携など再開させた。行事満足度もアンケート結果から高い数値（出席率含む）となり、産学連携に関しても提案したレシピが商品化されたこともあり、生徒への教育効果は非常に高かったと感じた。

② 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員：分野関係なく高校の卒業生が多数お世話になっているが、その中でも御校のような飲食分野（業界）を目指す学校は、当校と非常に合うと感じている。作ったものを評価される機会も多く、学内店舗実習では地域貢献もでき、承認欲求・自己肯定感を高めやすいように思う。日々の授業の中で、その場で褒められる機会があり、評価されている様子を見ると、安心して高校からは送りだすことができているし、重点施策にしっかり取り組まれている様子が確認でき、今後も継続して実施いただきたいと感じている。

大内委員：学内店舗実習はお店を自分達で運営することと、自ら考えて動くという2つの側面があった。店舗実習は限られた環境下でどう動き、お客様に商品とサービスを提供し、自分たちで考えて行動する事が求められる。時間などにも追われ、大変なことも多いが、楽しみながらも前向きに運営できていたし、負荷がある分得るもの多くあり、成長につながったように思う。特に技術力と人間力（挨拶・コミュニケーション）は実践を通じて身についたと思っている。やりがいを感じることが、退学防止になると良いと思う。

長山委員：飲食業界で大事なのは第一印象。それができていると、基本的にはどんな店舗でも可愛がられる。企業側も挨拶、自立心の向上のための研修を整え始めているが、東京スイーツ＆カフェ専門学校の生徒は在学中の2年間で身についているように思う。そして店舗実習では気づきを持ってチームとして動くこともできる機会がある。その反面どうしても上手に動けない生徒もいるかと思うので、ストレス耐性をつけていく必要があると感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

新型コロナウイルス感染症対策として、入学前の保護者説明会はオンデマンド配信となったが、視聴回数からほぼ全員視聴されており、今のご時世に合わせられていると感じた反面、教育方針等どの程度伝わったのか不安は残る。対面で実施することが学校教育への理解・浸透を図るには必要なことであると感じる。

② 今後の改善方策

入学前の説明会は対面実施にて計画を立て、学校の教育方針や理念・育成人材像等の周知・浸透を図っていきたい。また、校舎内での掲示物や普段の学校生活から育成人材像などを伝え続けることは勿論、入学前研修後の継続した指導・教育を強化し、就職対策・未来デザインプログラムとも連携し浸透させたい。業界の変化を知るために企業様への訪問の数を増やし、情報収集の仕方を工夫していきたい。

③ 特記事項

教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンなど浸透させる機会(全体会議や学科教科会など)を設け、継続的に実施している。また、保護者・生徒へは入学前の保護者説明会にて教育方針等の理解と協力を要請している。入学前は、オープンキャンパスでの体験入学(個別相談会)・入学前オリエンテーション・保護者説明会等を開催。入学後は、スタートアッププログラムにて、学校の理念・目的・育成人材像を周知し、そこに向かうべく、個々の目標設定を普段の学校生活で実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員:飲食店はほぼオンデマンドを無くし、「会う」というところを大事にイベントなども活発化している。企業の中でも運動会や BBQ などのイベントを復活させているところもある。企業選考も、マスクを取っての説明会・面接で表情なども見るようになっている。可能な限り、対面で実施し保護者会含め関係各所に理解浸透を図れると良いと考える。

齊藤委員:高校でも保護者への説明の浸透のため、今年度より保護者会は対面で行うことに決定している。WEB(オンデマンド等)で行うよりも、表情も見ることができることにより浸透度が図りやすいため、対面で実施いただきたい。

大内委員:時と場合により、対面と WEB は使い分けているように思うし、情報提供や発信は引き続き活発に実施していただきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

運営組織･役割が明確化されてはいるが、意思決定までにタイムラグがある。状況によって時間を要する場合があり、進捗の報告･連絡･相談が不足している。また、人材育成観点で担当者を割り振るか、スピードと効率重視で担当を割り振るか業務内容により割り振り方を変えることも必要であると感じる。

② 今後の改善方策

毎週の会議と各校務の打合せで情報共有を行う場を設けると共に、「何のために、誰のために実施しているか」根本を忘れず、質を高めて行く意識をより浸透させていきたい。また、教員間の情報共有ツール（メールやMicrosoft Teams） をうまく活用していきたい。

③ 特記事項

期末、期首毎の全教職員を対象とした会議、各コースの教員教科会、上長や先輩教職員と後輩教職員のOJTトレーニングなどを実施しており、意識の統一や情報の共有、各メンバーのスキルアップなどに注力している。また教職員への案内はタイムリーな情報提供･ペーパーレス化を目的とし、Microsoft Teams･Sanko Gate にて実施している。システム化されているものとしては出退勤時間の入力、経費精算システムでの申告、給与明細の電子化などが挙げられる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大内委員：在学中を振り返ると、既に決まっていることは早期に案内していただきたいと感じたこともあった。情報共有ツール･掲示物･口頭で伝えることなど、ツールを上手く活用していただきたい。

齊藤委員：高校では「どこで、どう周知するか」を意識している。情報共有ツールを活用してできるだけスピード感をもって、タイムリーに提供していくことは必要だと感じる。また、伝え方で工夫している事は、件名をわかりやすくすること、短くすることなどを意識している。

長山委員：WEB でのコミュニケーションも必要だが、やはり対面でしっかり伝え、話し合う場も必要と感じる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

教員研修･指導力向上研修等を実施しているが、実施後の実践状況の確認と振り返りをする場を設けていく必要があると感じる。また、外部講師招聘後、意見交換（評価含む）をする場を設けることも必要であると感じる。

② 今後の改善方策

教科会等で取り組んでいることや活かしていることなど、意見交換する場を設けていきたい。また、外部講師を招聘した際は、取り組んでいる教育活動に関して意見を伺う場を設けていきたい。その上で、授業アンケートを活用し、個々のスキルと質向上を図っていきたい。

③ 特記事項

年 2～3 回の教員研修、授業見学週間の設定等、授業や指導力向上に向けて取り組んでいる。また、前期後期ともに教員の授業力（専門性･実践力）を向上させ、生徒の授業に対する満足度を高めることを目的とした「授業の進め方アンケート」を実施し、副校長や担任指導者よりその結果を教科担当者にフィードバックをし、改善につなげている。引き続き、産学連携や地域貢献への取り組みを行い、実践的な活動を多く行う予定である。

④　学校関係者評価委員会コメント

大内委員：研修や勉強会など、生徒のために取り組まれている様子が確認でき、卒業生としても御校を卒業して良かったと改めて感じる。最近の新卒入社の社員も挨拶がなかなかできない、もしくは自分で考えて行動する事ができない社員もいる。生徒のうちに授業以外の学びを得ておくことは必要だと感じる。生徒目線で言えば、何を教えるかも大事だが、「誰が」教えるか（有名な人などでなく、先生の人柄や熱心であるなど）が大事だと感じる為、御校はそこを引き続き大事にして実施いただきたい。

長山委員：教育活動については概ね問題ないと感じる。昨今は挨拶・返事など、基本と思われる部分が出来ていないと見聞きする。カリキュラムにはない学びや気付きができるのは御校の強みと理解しているため、継続して実施いただきたい。

齊藤委員：良い教育内容を提供していると感じるからこそ、生徒にはしっかりと教育理念を理解・浸透を図っていただきたいと感じる為、継続して発信し続けてほしい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

安定した求人票と採用枠の確保をするために企業様への働きかけや姉妹校間の情報共有を強化することが必要と考える。また、資格試験合格率の更なる向上と退学率低減の継続、ならびに卒業後の状況の把握は今後も課題である。

② 今後の改善方策

企業訪問等積極的アプローチを進めていくことと、求人情報を優先的にいただけるよう関係構築に力を入れ、求人情報はタイムリーに在校生へ開示するため「キャリアナビ」の運用をスタートさせていきたい。資格試験合格率の更なる向上を目指し、生徒への動機づけの強化(取得に向けて強い意志を持たせる心の醸成)と対策の創意工夫を例年以上に進めていきたい。また、退学者低減を継続させるため、生徒情報の共有は早期に行うようにし、必要に応じスクールカウンセラーへ相談する機会を増やしたい。

③ 特記事項

数多くの企業様が来校し、学内企業説明会を開催しているが、この期間以外でも積極的に学内にて企業説明会を開催している。

卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP及び Instagram の活用や支援の取り組みを実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員：通信生は近年増えている。また、高校でもスクールカウンセラーへの相談の機会は増えている。生徒の中にはコミュニケーションがうまく取れず、間違ったアプローチを教員へする生徒もいる。一人で生き抜く力を身に付けてもらいたいため、学校生活での授業や実習などの他に、行事やコンテストなど実施し、経験学習ができる場を増やすことで、就職後に活かせると感じる。

長山委員：仕事は楽しいばかりではなく、大変で辛い時の方が多いが、この業界を深く知り、魅力を感じ卒業してほしい。また就職先とのミスマッチが起きぬよう、企業との連携を図り適切に、生徒へタイムリーに情報を開示していただきたい。キャリアナビの活用に期待している。

大内委員：退学率は改善傾向であるため、引き続き、退学率の低減に努めていただきたい。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

最近、精神的な配慮が必要だと感じる学生が目立つため、生徒の状況によりスクールカウンセラーの活用を強化する必要があると感じる。また、卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

教職員向けにスクールカウンセラーによる研修の場を設けて行きたい。また、生徒状況の共有など、教職員間の情報共有・情報開示を多くし、多くの大人が生徒に関われるようにしていきたい。

自主練習（LABO）や、商品開発プロジェクト、特別ゼミを開催し、生徒の実践力を向上できる場を増やすことで、学習意欲を高め、学校生活の充実ややりがいに繋げていきたい。

在籍時より卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」の告知を強化し、このサイトを有効活用していきたい。

③ 特記事項

生徒の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンを案内している。

学生の生活環境への支援としては、提携している寮等の案内がある。

高校との連携では、職業紹介のガイダンス等で協力を行っている。

退学者に対するアンケートを実施し、今後の学校運営に役立てている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大内委員：就職支援体制は整っていると感じるが、生徒には働く職場の雰囲気を知る必要性を伝えてほしい。
また、卒業生支援では保険やお金の運用、税金のことなどを知る機会を提供いただきたい。

長山委員：慎重に就職活動を進める生徒が増えてきているように感じるが、動きのスピードは必要と感じる為、
生徒へ慎重になり過ぎず、まずは動くことを伝えていただきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

建物の老朽化もあり校舎・設備に不具合が生じた場合は、教育環境を整える為、早期に対応する体制を整えていく必要がある。また、災害を想定した避難訓練の内容の見直しと、教員の避難訓練の実施と意識の強化をする必要がある。

⑤ 今後の改善方策

施設担当の体制（組織図）の見直しをしていきたい。また、教職員全員による避難訓練を実施し、実際の導線の体験・確認を行っていきたい。万が一の事態に備え避難経路の確保については常日頃から点検を行い、避難経路の清掃に務めたい。ホームルーム等にて生徒へ避難訓練の意義や必要性の案内を継続したい。

③ 特記事項

2021年度に校舎の大規模改修工事を実施している為、現状目立った不具合は生じていない。

企業と連携をし、現場が求めている人物像をキャッチし、インターンシップ前の指導及び終了後の指導・アドバイスなど事後指導の実施をして、卒業後に現場で活躍できる人材を育成する。

防災・安全管理において、非常食・飲料水などの備蓄品や職員室内の防災用品を最低限設置している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員：安全面に関しては概ね取り組まれていると感じる。日頃の意識や訓練しかないと思うため、引き続き防犯・安全管理の実施を継続いただきたい。

齊藤委員：高校でも安全管理については強化しており、始業式や終業式などで全体へ周知している。また万が一に備え、日頃から告知・掲示をしている。御校でも引き続き適切に周知案内をしていただきたい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

東京都や専修学校各種学校のガイドライン等に沿って適切に行っているため、特に大きな課題はない。引き続き、高校側に対して本校の学校教育にご理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただくよう努める。

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

高等学校の特別授業等で業界の魅力を伝える活動を行っている。

入学前のイメージと入学後のギャップを持たない情報伝達に努めている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員:募集活動は適切に行われていると感じる。引き続き規程に沿った募集活動を続けていただきたい。

齊藤委員:誤解を招くような募集活動は見られない。高校生にとって将来を左右する学校選びに是非協力いただきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について理解・継続する必要がある。

時間外労働については、より一層改善する必要がある。

② 今後の改善方策

会議や掲示等を通じて、全ての教職員が法令遵守に対し継続的に啓蒙活動を行っていきたい。

引き続き、業務効率化や適材適所の采配から業務負担を軽減すると共に個々の業務スキルアップに向け、研修を実施していきたい。

有給休暇の取得やフレックス制度の積極的な実施を促していきたい。

③ 特記事項

在学生に対しては、初回のホームルームにおいて、「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活、喫煙等について、法令遵守の視点から周知している。また、在学生に対してはホームルームや授業にて、インターネット利用の注意点を継続的に伝えている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齊藤委員：高校で個人情報の取り扱いやコンプライアンス遵守に取り組んでいる。御校でも日々継続的な啓蒙活動に取り組んでいただきたい。また、フレックス勤務や在宅ワークを推奨している。在校生に支障のない範囲で進めていただきたい。

長山委員：個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守については企業や他校も大きな問題・課題と捉え、意識し取り組んでいる。引き続き適切に対応するよう努めていただきたい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域貢献活動の目的や教育効果を考えると、積極的に参加していく必要がある。

② 今後の改善方策

地域活動の積極的な斡旋と参加をしていきたい。また、地域貢献の為の講座を開催し、学校にご来校いただく事で地域との連携をしていきたいと考えている。

③ 特記事項

地域への日頃の感謝と卒業生に対して「教員による店舗販売」を実施。

近隣にある通信制高校の進路発見の一部である体験授業への講師派遣を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

大内委員：卒業生も絡め、地域貢献活動を計画しているとも聞く為、楽しみである。在校生への学びの場となる場が創出できるよう、努めていただきたい。

齊藤委員：学園の姉妹校と共に実施した地域貢献活動は好評であると聞いた。是非今年度も実施いただきたい。

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

入国制限の緩和から留学生に対する受け入れ体制の強化は継続的に実施していきたい。また、就職先の確保を一層強化していきたい。

② 今後の改善方策

留学生サポートセンター（同法人内部署）と姉妹校である日本語学校との連携を強め、就職先の確保に努めていきたい。また、留学生指導に関わる教員の知識向上も図っていきたい。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

長山委員：留学生の人数も減っていると聞くが、留学生サポートセンターと連携し、引き続き受入体制・支援体制は整えておくようにしていただきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないと感じている。
コロナ前に戻した教育活動や課外活動、そして行事を実施し、1年間を総合的に振り返ると、各種アンケート数値（生徒満足度・教職員への評価）や、退学率の低減、資格検定取得率アップ、就職率向上など、結果が出せたと言える。2022 年度の良い部分を踏襲し、自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる人材を輩出する学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

2023 年度も引き続き、下記を取り組んでいくが、学園のミッション・ビジョン実現と製菓・調理分野のビジョンや教育理念、そして人材育成像の実現に向け一層取り組み、多くの方に理解・浸透が図れるよう努め、社会人として当たり前のことを当たり前にできるよう「基本に忠実に、継続する」ことを念頭に普段の学校生活から「習慣化」させる。その為に普段の学校生活の過ごし方を見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りを行っていく。

1. 生徒教育（教務）の継続と強化※人間力（マナー・モラル、挨拶やリアクション等）を磨く、自律、技術取得の 3 つの観点
2. 退学率の低減（広報活動と教務活動連動）への取り組み・就職支援（在学・卒業後）・資格検定の合格率向上に向け、質を高めていく
3. 課外活動の再開